

令和 7 年度 重点研究の総合評価(中間・事後)

■重点研究 中間評価(継続課題)

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		研究 の 進捗	目標 達成 見込	活用 の 可能性	評価	意見	評価	意見
ブロッコリー省力生産体系の構築に向けた機械一斉収穫技術の確立								
○十勝農試 (R6-R8)	b	b	b	B	現場での作業を考慮した斉一性を高める栽培技術および目標損傷率を達成できる収穫機械の改良を進めるとともに、労働力および生産費を検討し、経済的に成立する目標歩留まりを明確化すること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。	
機械学習による斜面ハザード評価手法の構築								
○エネ環地研 (R5-R8)	b	b	b	B	概ね計画通りに進捗している。教師データとして用いていない地域での予測精度が活用性を決めると判断される。斜面ハザードの評価に十分な降雨の将来予測に努め、防災計画に活用できる精度の高い評価手法の構築に取り組むこと。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。	
北海道農産物の物流を補強する低温酸化触媒の開発とそれを用いた鮮度保持システムの構築								
○工試、北総研 (R6-R8)	a	a	a	A	新触媒の開発は計画通り進捗している。触媒によるエチレン酸化反応のメカニズムについて引き続き解析を進めるとともに、農産物の品質評価技術を活用しながら、鮮度保持輸送システムの空間設計に取り組み、物流業界へ普及できる成果につなげること。	A	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。	
防災まちづくりにおける防災・減災対策評価ツールの開発								
○北総研 (R6-R8)	b	b	b	B	災害種別に対して人口規模や被害率に基づいた市町村の類型化を早急に進め、それに応じた各種評価指標の策定と防災効果予測手法の構築、妥当性評価に取り組むこと。道内の多くの自治体が活用できるツールの開発と利用方策の検討を進めること。	B	評価委員会の意見も踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。	

■重点研究 事後評価(R6 年度終了課題)

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意見	評価	意見
リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発								
	○中央農試、十勝農試、北見農試 (R3-R6)	b	c	c	C	湿害の診断技術には一定の成果が得られたものの、干害リスクについては当初の目標が達成できなかった。現時点で、成果の活用は部分的と判断されるため、本研究の結果や関連技術、先行事例などを再検討し、未達成である課題の解決に向けたアプローチを検討すること。	B	開発した土壌湿害リスクの診断技術は、全道各地で早急に活用が期待されているものである。成果の普及を進めるとともに、評価委員会の意見を今後の取り組みに役立てること。
道産かぼちゃ 3 トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発								
	○花野技セ、中央農試、十勝農試 (R4-R6)	b	b	b	B	省力栽培法と長期安定貯蔵法は一定の成果が得られた。今後、収量以外の特性も考慮した品種の選定と栽培・貯蔵法の最適条件を検討するとともに、肥料代や環境負荷、設備投資などを考慮しながら成果の普及に努めること。	B	評価委員会の意見も踏まえ、成果の普及を進めること。
持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化								
	○上川農試、道南農試、花野技セ、北総研、工試 (R4-R6)	b	c	b	B	省エネ栽培、環境制御について研究事例が得られたが、オフグリッド環境制御技術開発については、電気設備に関する事前検討が不十分であり、目標を達成できなかった。当技術は小規模や資本金力が乏しいハウス農家には有用であり、安定性・安全性を配慮した研究体制を検討して新たな取り組みを進めるように期待する。	B	評価委員会の意見を踏まえ、今後の取り組みに役立てること。
道産ガゴメの生産性を向上する促成養殖生産システムの開発								
	○函館水試、中央水試 (R3-R6)	b	b	b	B	ガゴメ養殖の起点となる屋内での早期種苗生産技術は構築されたと判断する。目標とする収量増加に到達していないが、養殖海域の環境特性に適した養殖条件等について更なる検討を進め、成果の普及に努めること。	B	成果の普及を進めるとともに、評価委員会の意見を今後の取り組みに役立てること。

秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発							
○栽培水試、工試 (R4-R6)	a	b	b	B	未利用のキタムラサキウニの養殖・保存・加工技術を概ね開発した。養殖ウニの品質向上については今後も続けて検討を期待する。事業性の評価には為替相場の変動や販路確保の複雑さといった不確実性を伴うため、これらを考慮しながら引き続き検討を進め、成果の普及に努めること。	B	評価委員会の意見も踏まえ、成果の普及を進めること。

カラマツ類及びトドマツの種苗配置適正化と優良品種導入による炭素吸収量増加効果の評価							
○林業試 (R4-R6)	b	b	b	B	炭素吸収量の長期的な増加を見込める適正な種苗配置を解明し、優良品種を選抜した。今後は、成果を戦略研究に展開し、予測モデルの改良などを行い、労働力を加味した森林管理やカーボンクレジットの観点、気候変動の影響などを考慮した総合的評価と目標値の設定に努めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、今後の取り組みを進めること。

農産物を対象とした目視品質検査の自動化技術の開発							
○工試 (R4-R6)	b	b	b	B	ブロッコリーの自動品質検査技術は一定の成果が得られたが、馬鈴薯やてん菜については現場での更なる検証を進めること。今後の自動化技術の実用化に向け、同類技術の開発状況や労働人口の減少を踏まえつつ、判別精度の向上や現場の判定基準の変更への対応など、技術改善に努めること。	B	成果の普及を進めるとともに、評価委員会の意見を踏まえ、今後の取り組みを進めること。